

答申案骨子（案）

○報告書全般について

- ・教育委員会の事業について、目標や取組内容、担当課などがまとめられ、それぞれについて評価されている。
- ・評価にあたっては、根拠となる主な取組に係る事務事業データが示されているが、数値的に示すことが難しいものもあるなど、網羅的にとらえることが難しい状況となっている。
- ・単年度の取組に対する評価であり、前年との比較がないため、評価に伴う今後の方針等について、判断することが難しい。

○報告書の内容について

(1)教育委員会の活動について

- ・会議の公開や会議録の公表などが行われ、透明性が高い。

(2)教育委員会の施策について

ア 生涯学習の推進

- ・人材育成や推進体制の充実等については順調に進んでおり、施設の再編・整備にあたっては、その施設を有効に活用する方策を検討する必要がある。

イ 文化芸術の振興

- ・有効性の高い取り組みを進めており、より一層市民の文化芸術を高める人材の育成などを進めていく必要がある。

ウ スポーツ・レクリエーションの振興

- ・函館マラソンの実施やスポーツクラブの育成など、生涯スポーツ活動の促進が図られている。
- ・障がいのある人のスポーツ活動の促進について、指導者の育成や各種大会の誘致などを進め、有効性を高めていく必要がある。

エ 文化財の保護活用

- ・縄文文化遺跡群のより一層のPRを図り、関係機関と連携し、保護・有効活用に努めていく必要がある。

オ 幼児教育の充実

- ・幼児教育の取組については評価できる一方で、幼保小連携について、円滑な接続ができるよう取組を進めていく必要がある。

カ 義務教育の充実

- ・地域とともにある学校づくりの中心となるコミュニティ・スクールについては、学力向上のための小中学校連携だけでなく、地域の教育力（高校、大学等）の活用などを含めるなど、早期に成果を求めず、じっくりと進めていく必要がある。
- ・地域の教育力を活用し、例えば、プログラミング教育は未来大学などと連携

- するなど、創造性を育む教育の推進を図る必要がある。
- ・学校における食育については、健康につながる食に対する興味・関心を高めるうえで重要である。
 - ・学校再編については、今後も通学路の保全・通学方法等に十分配慮しながら進めていく必要がある。
 - ・いじめ・不登校については、学校と関係部署、関係機関等と連携しながら、今後も有効な取組の継続が必要である。
 - ・運動部活動については、働き方改革もふまえ、適切に取り組んでいく必要がある。

キ 高校教育の充実

- ・函館学の実施など地域の特性を生かした取組が行われ評価できる。
- ・コミュニティ・スクールなども検討し、小中学校等との連携も視野に入れるなど、特色ある学校づくりをより一層進めていく必要がある。

ク 特別支援教育の充実

- ・支援員の配置や支援体制の充実が図られており、今後も関係機関との連携を進め、積極的な支援を期待する。

ケ 教職員の人事管理

- ・サービスの徹底については、開かれた学校により有効性が高まるとともに、管理職と一般職員との適度な緊張関係も効果的と考えられる。
- ・チーム学校の良さは、コミュニティ・スクールの取組によって、より一層高まる。

コ 学校現場における業務改善方策の検討

- ・教育委員会が率先して取り組んでおり評価できる。
- ・学校現場の実態と施策がかい離しないよう、業務の削減につながる取組を進めていく必要がある。

○今後に向けて

- ・報告書については、取組内容を評価することを目的とせず、今後の改善につなげていくことが重要である。
- ・取組や成果については、数値指標があれば達成度などがわかりやすい。
- ・教育振興基本計画に基づく評価については、適切な報告書となるよう検討が必要である。